

永井祐吾（著）

DVD でわかる消化器内視鏡外科手術

福永正氣

順天堂大学浦安病院外科・低侵襲外科

スタッフと症例に恵まれた一部のハイボリュームセンターの外科医は、専門領域の手術を極め、さらに新術式を開発すれば当然高い評価を受ける。しかし、本邦の最前線の病院で地域医療を担う外科医の評価は異なる。著者である永井先生が、実臨床で内視鏡外科医に求められるものは何か、実際の達成目標をどこに設置すべきか、これらの疑問を明示した解説付きのDVD第2作が完成した。消化器外科医が習得すべき内視鏡手術のすべてを網羅している。第一線の病院で数々の修羅場をくり抜けて、丹精して築き上げてきた著者自身の実践的で手抜きのない手技が、どの術式においても一貫して行われ、説得力がある。

永井先生は、要点を明確に伝えるが、 unnecessary 言葉は吐かない。納得できないことは決して引き下がらない。これは私が先生に初めてお会いしたときの印象で、今もまったく変わらない。スタンスがブレない。

著者は、40歳前後までは開腹手術のみの時代で修練を積んだ。そのうえ外科医にして内視鏡診断と治療にも精通し、スタンスが広い。

腹腔鏡下手術には、その黎明期から関わり、2002年に大学病院から地方の中核病院に赴任、そして現在の泉大津市立病院での内視鏡手術の立ち上げに携わり、大変苦勞して見事に立ち上げていく過程を間近で拝見した。この第一線の病院での経験から、これからの日本を担う消化器外科医が内視鏡手術を習得する必要性、そのための合理的な教育の重要性をより痛感したことが、このDVDを作成する原動力となったと推測する。

内視鏡手術の手技の基本はどの術式も同じだ。すべての術式に一貫していることは、無理なく、誰でもが導入しやすい、安全性を第一に考慮した手技で進められていることだ。一つ一つの手技、手順が、ポート位置決め、使用器具の選択、視野展開が最良となるように周到に準備して

行われているために、無理なくスムーズに進行しているのである。また、難度の高い操作ではなく、体外吻合、体外結紮などを採用し簡略化を図り、誰もが取り入れやすい手技を選択している。各術式別に知っておくべき注意点が、簡潔、明瞭に示され、わかりやすい。

永井先生自身の解説と、軽妙なバックグラウンドミュージックを聴きながら、DVDを繰り返し見てほしい。見るたびに、自身の内視鏡手術をより高い次元に押し上げる、新たな発見があるはずだ。そして、ここに示された具体的な達成目標を目指し、修練することで、現場の要求に応えられる、信頼される内視鏡外科医となるはずだ。

●A4判/頁110/DVD2枚付/2011年/
定価 12,600 円（本体 12,000 円＋税 5%）

[ISBN978-4-524-26326-4]

南江堂 刊